

最上川水系流域委員会

最上川水系河川整備計画(知事管理区間)の 進捗状況について

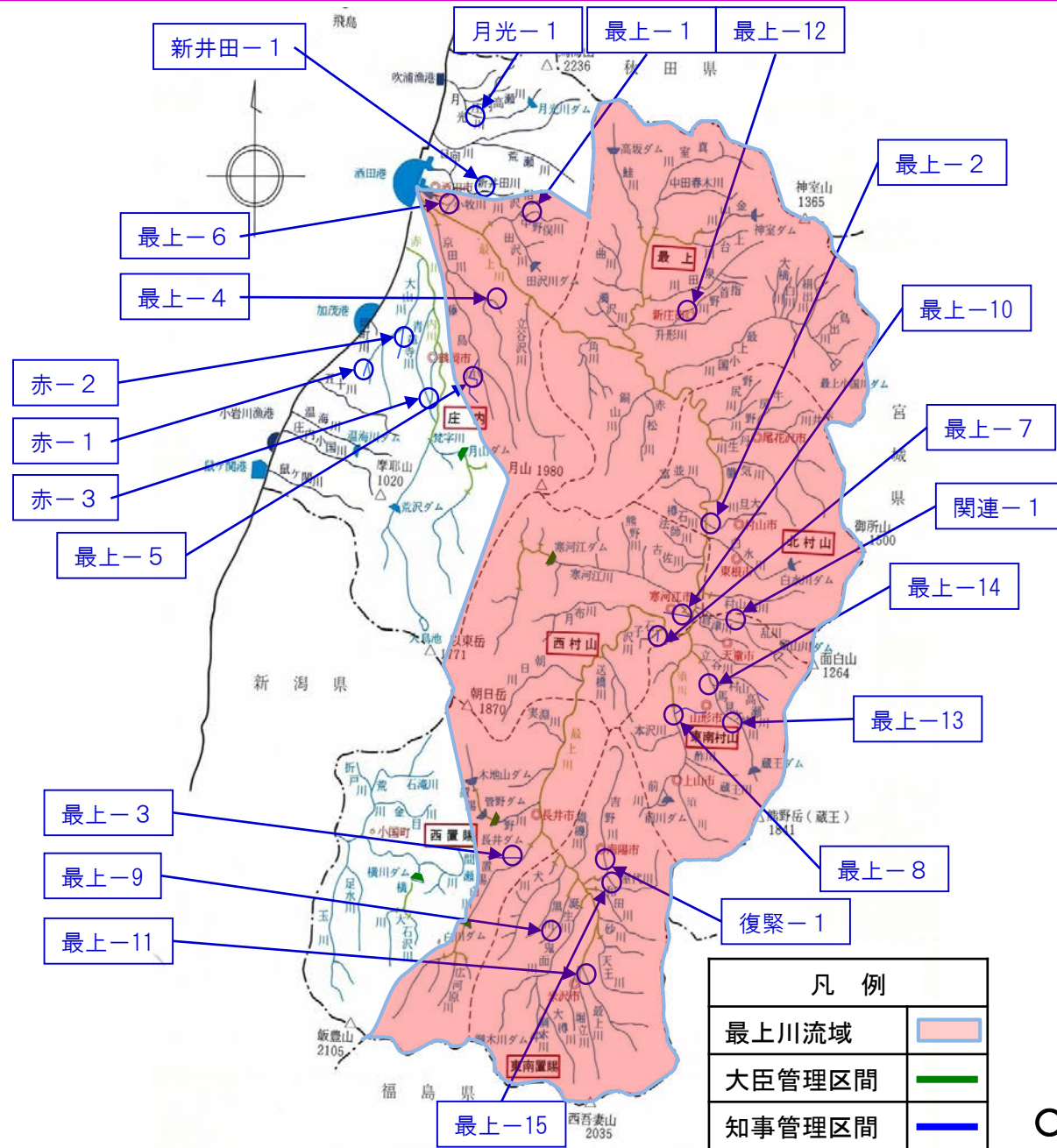


平成29年11月28日 (火)
山形県県土整備部河川課

説明内容

1. 山形県の河川事業
2. 山形県内の近年における浸水被害
 - (1) 頻発する浸水被害
 - (2) 平成26年7月9日～10日「台風8号」の状況
 - ◆吉野川沿川の被害状況
 - ◆吉野川河川災害復旧等関連緊急事業【復緊】（南陽市）
3. 施設の能力を上回る洪水への対応
 - ◆「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく減災に対する取組み
4. ソフト対策
 - ◆人命保護を最優先にした警戒避難体制の確立
5. ハード対策
 - ◆災害に対する安全性を高める施設の効果的な整備
 - ◆最上小国川流水型ダム of 整備（最上町）
6. 維持管理
 - ◆長寿命化対策の推進
 - ◆県民協働による維持管理・地域づくりの推進
 - ◆河川流下能力向上計画

山形県の河川事業



○補助事業

・平成29年度交付金事業

位置図No.	河川名	備 考
赤-1	矢引川	
赤-2	湯尻川	
赤-3	青竜寺川	丸岡分水堰（延命化・改築）
月光-1	月光川	
新井田-1	新井田川	
最上-1	中野俣川	
最上-2	大旦川	
最上-3	萩生川	
最上-4	宇津野沢川	
最上-5	黒瀬川	
最上-6	小牧川	小牧川水門
最上-7	新堀川	
最上-8	須川	
最上-9	誕生川	
最上-10	沼川	
最上-11	羽黒川	
最上-12	指首野川	
最上-13	馬見ヶ崎川外	統制・監視局
最上-14	馬見ヶ崎川	
最上-15	屋代川	

・河川災害復旧等関連緊急事業（復緊事業）

位置図No.	河川名	備 考
復緊-1	吉野川	

・河川等災害関連事業

位置図No.	河川名	備 考
関連-1	乱川	

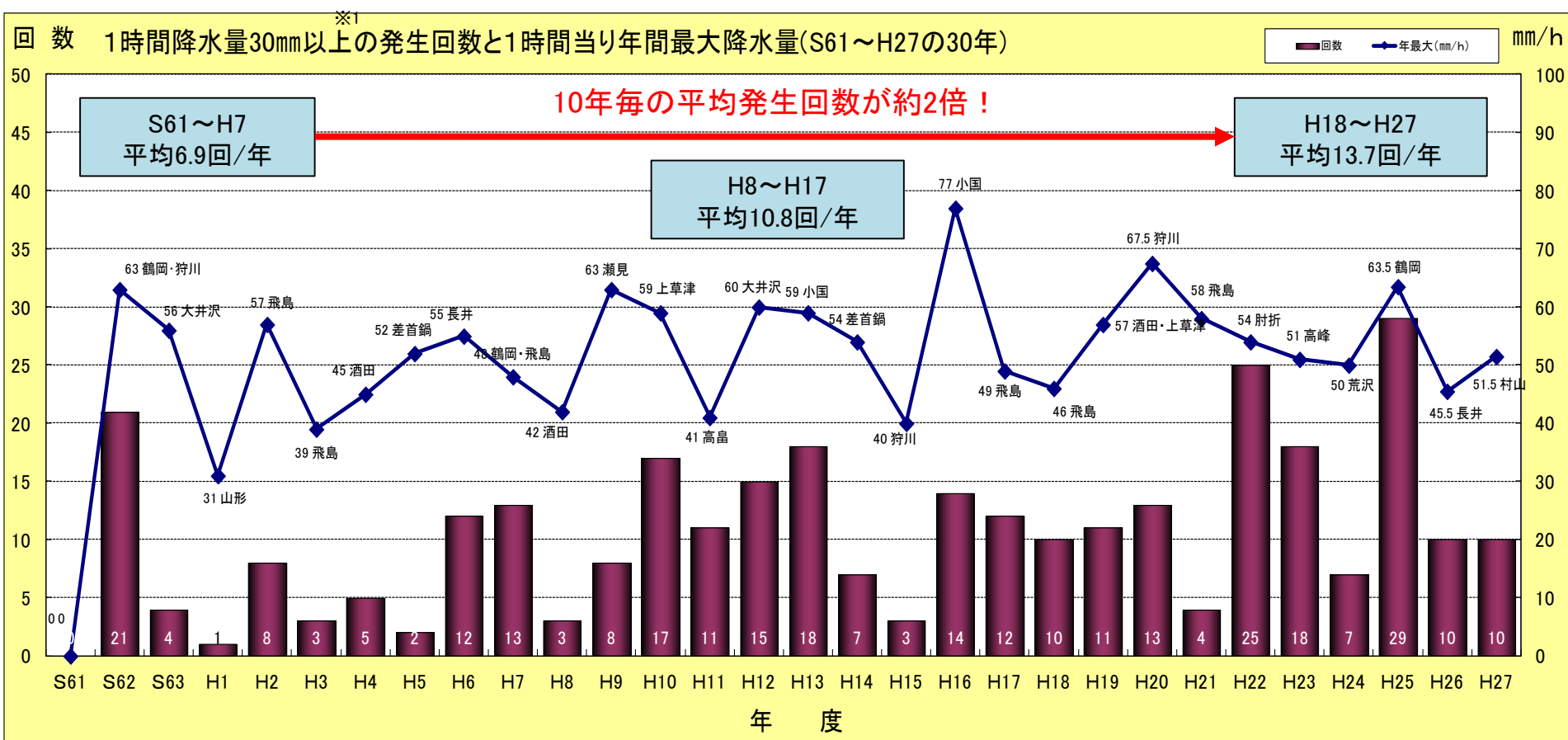
○単独事業

- ・河川整備単独事業
- ・河川流下能力向上対策事業 その他

山形県内の近年における浸水被害

(1) 頻発する浸水被害

- ◆平成26年7月豪雨、平成27年9月関東・東北豪雨及び平成28年8月の台風9号等により、**山形県内では甚大な浸水被害が頻発**しています。
- ◆県内では、地球温暖化に伴う気候変動等により、**今後も記録的な集中豪雨や災害が多発することが懸念**されています。



※1 県内市町村の大雨注意報の最低雨量基準に合わせ、1時間降水量30mm以上の発生回数を集計

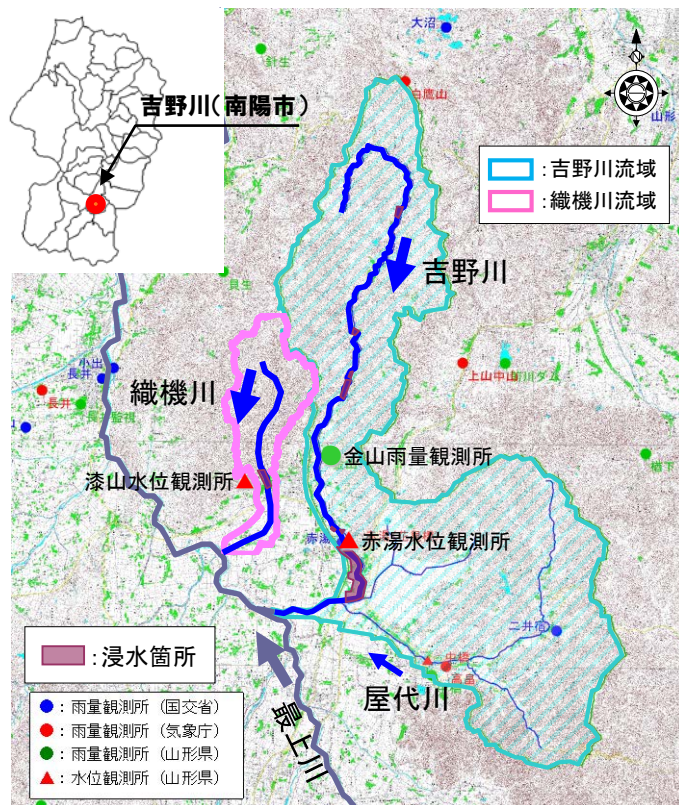
※2 山形地方気象台提供資料を基に作成

山形県内の近年における浸水被害

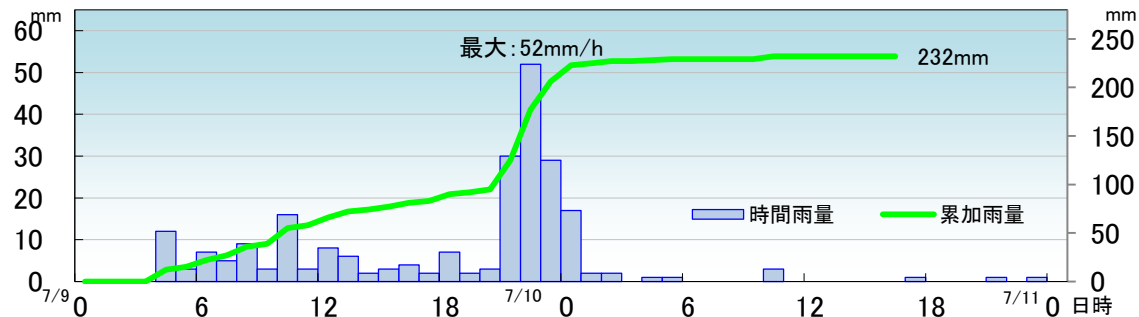
(2) 平成26年7月9日～10日「台風8号」の状況

◆平成26年7月9日から10日にかけて、東北地方に停滞する梅雨前線に向かって、台風8号からの暖かく湿った空気が流れ込み、**県南部では平成25年から2年連続となる大雨**となりました。
◆この雨により、最上川水系吉野川の赤湯水位観測所及び織機川の漆山水位観測所において、**観測史上最高の水位を記録し、南陽市では、全壊1棟、半壊6棟、床上浸水174棟、床下浸水307棟**（山形県危機管理課調べ）**の甚大な洪水被害が発生しました。**

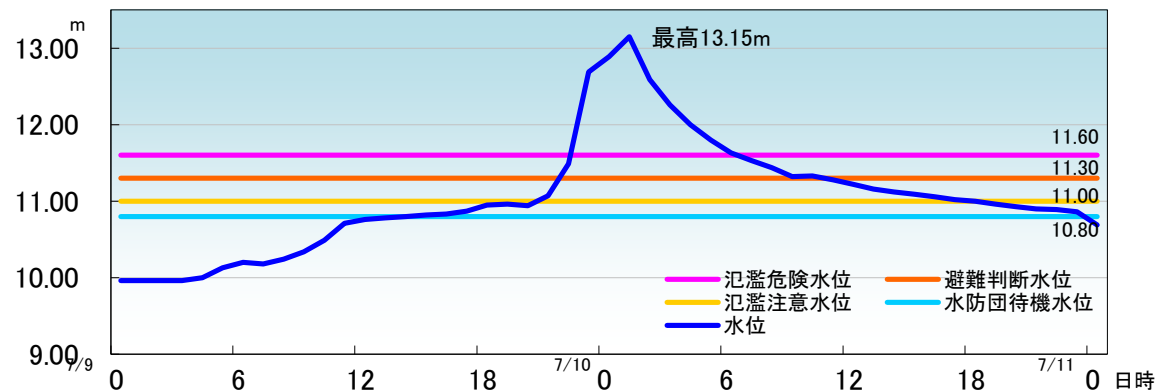
■位置図



■雨量データ（南陽市：金山雨量観測所〔県〕）



■水位データ（南陽市：赤湯水位観測所〔県〕）



山形県内の近年における浸水被害

■吉野川沿川の被害状況

⑤市街地浸水状況



⑥家屋浸水状況



⑦取水施設被災状況



⑧市道橋落橋状況



吉野川平面図



①白竜湖周辺湛水状況



②市街地端部浸水状況



③市道妹背橋 流木による河積阻害



④市街地出水痕



山形県内の近年における浸水被害

吉野川河川災害復旧等関連緊急事業【復緊】（南陽市）

H25、H26の2年連続で戦後最大規模の洪水が発生した吉野川では、上流側の災害関連事業を完成させるとともに、復緊事業にて河道掘削・築堤等の河川改修、治水上支障となる橋梁の架替等を実施し、H29末までにH26洪水対応の流下能力を確保します。

【事業概要】

L=9.0km C=80.8億円

H25～H29

Q=270～510m³/s

内容：河道掘削、築堤、護岸、
橋梁架替 等

改修完了箇所



H29年度実施箇所



河川断面の拡大
(河道掘削、築堤)

H29年度実施箇所



河川断面の拡大
(河道掘削、築堤)

H29年度実施箇所

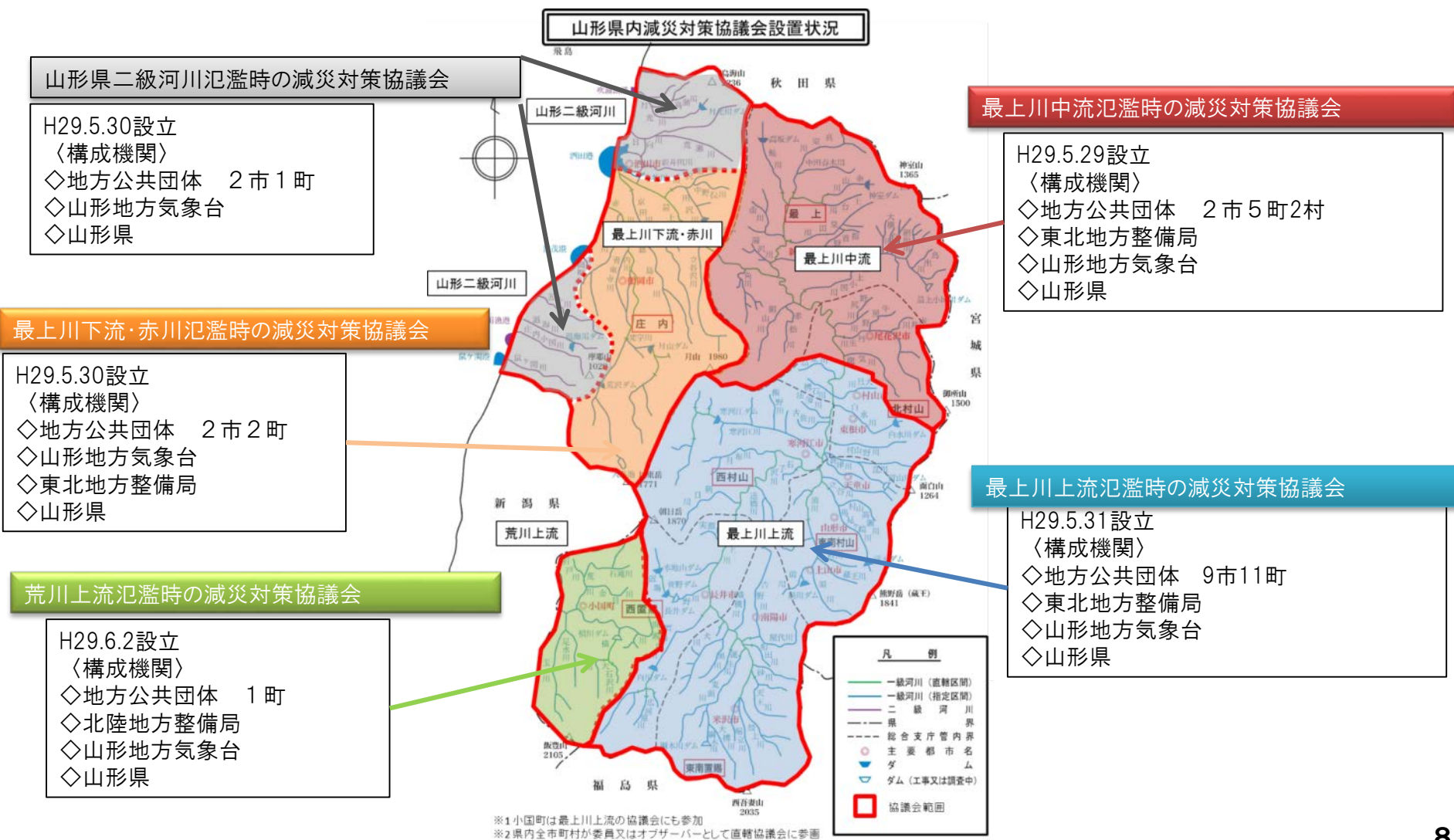


河川断面の拡大、橋梁架替
(河道掘削、護岸、上部工)

施設の能力を上回る洪水への対応

「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく減災に対する取り組み

最上川上流、中流、下流・赤川、荒川、二級河川の5つの減災対策協議会を設立して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的かつ計画的に推進するための協議・情報共有を実施します。

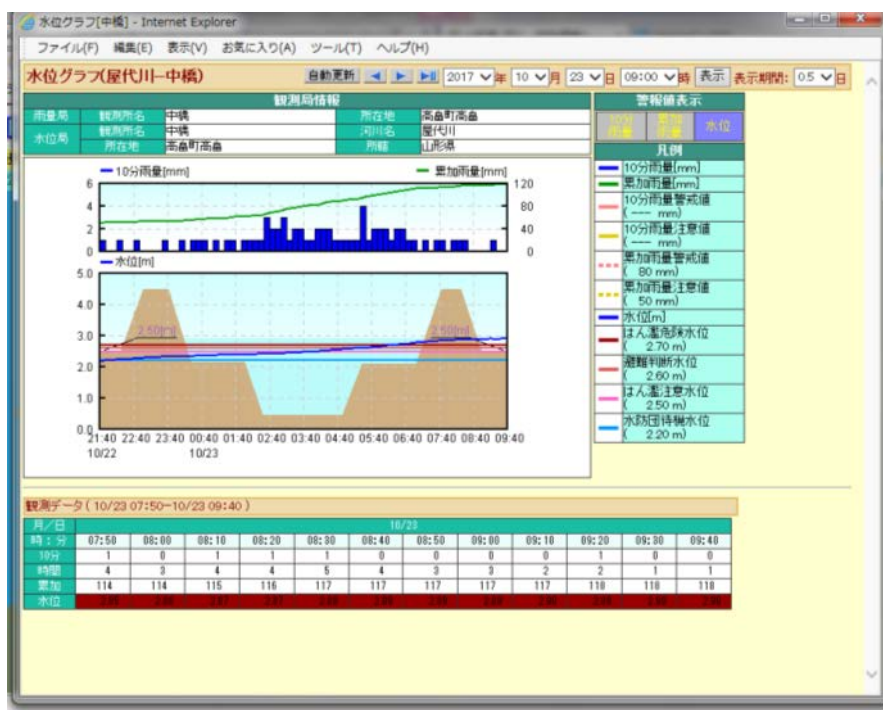


ソフト対策

人命保護を最優先にした警戒避難体制の確立

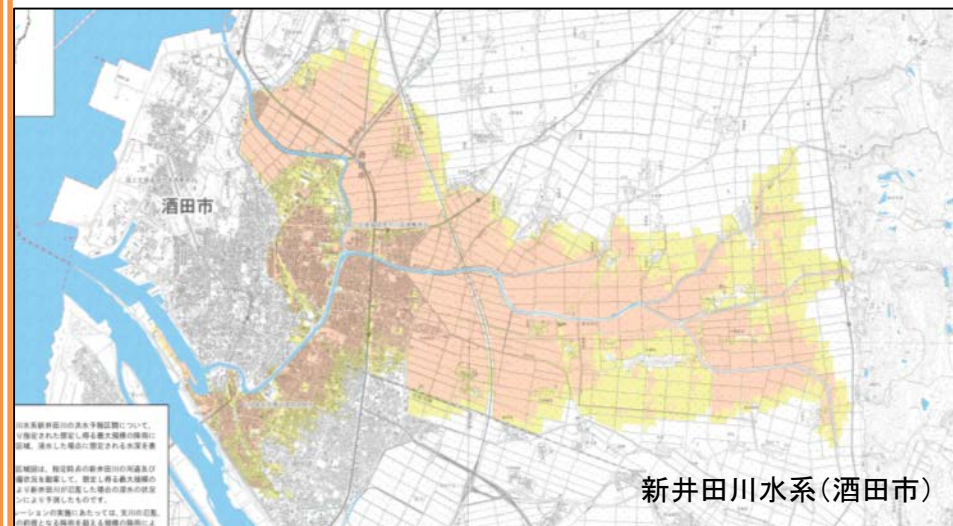
災害時の人命保護を最優先とした警戒避難体制の確立のため、必要な基礎資料やより使いやすい
避難の目安となる情報を市町村に提供します。

河川砂防情報システムの機能強化 【交付金 情報基盤】



雨量計、水位計の**最短配信間隔を10分から5分へ短縮**することで、より迅速に防災情報を提供できるようシステムを改良します。

洪水浸水想定区域図の作成・提供 【交付金 広域河川】



平成27年の水防法一部改正を踏まえ、想定される最大規模の外力に基づいた**浸水想定区域図を順次作成し公表**していきます。

ハード対策

災害に対する安全性を高める施設の効果的な整備

- ◆大規模な被害が生じた河川については、早期機能強化を実施し、再度災害の防止を図ります。
- ◆流下能力を確保することで洪水による被害の軽減を図り、災害に対する安全性を高める河川管理施設を効果的かつ効率的に整備します。

乱川(天童市) 【改良復旧:災害関連】

H29年度実施箇所



近景



沼川(寒河江市) 【交付金:広域河川】

H29年度実施箇所



改修完了箇所



須川(上山市) 【単独:河積回復減災】

H27年度実施箇所



完了状況



ハード対策

最上小国川流水型ダムの整備（最上町）

最上小国川はアユ釣りで全国的に知られている清流であり、**河川環境への影響に配慮し**、平常時には水を溜めない**治水専用の流水型ダムを整備**しています。



最上小国川ダム完成予想図



H29.6.13 定礎式開催状況

最上小国川ダム建設事業

全体事業費：84億円

全体工期：平成20年度～平成31年度

平成28年度まで	転流工、基礎掘削の完了、初打設式
平成29年度	堤体コンクリート打設進捗、管理棟の新築着手、定礎式
平成30年度見込	堤体・管理棟の完成、試験湛水
平成31年度見込	周辺環境整備、竣工式



堤体コンクリート打設状況（下流より）



堤体コンクリート打設状況（上流より）

維持管理

長寿命化対策の推進

◆河川管理施設の整備に伴い維持管理費が増大する中、長寿命化計画に基づいた施設の改築等により、効率的・効果的な施設機能の確保にかかるコスト縮減を図ります。

小牧川(酒田市)
【交付金 特構】

H29年度実施箇所



ITV監視装置更新

樋門・樋管(全県)
【単独 自然災害防止】

H29実施箇所



本体・ゲート補修

H29実施箇所



本体・ゲート補修

維持管理

県民協働による維持管理・地域づくりの推進

社会基盤の整備から維持管理に至るまで、**県民参加・協働を推進**し、個性力で活力のある地域づくりを推進します。

河川流下能力向上対策 (公募型掘削)

H28年度実施箇所



完了状況



河川流下能力向上対策 (公募型伐採)

H27実施箇所



完了状況



ふるさとの川愛護活動支援 (アダプト)



維持管理

河川流下能力向上計画（H29～H33）

県管理河川の**堆積土砂や支障木の撤去等による流下能力向上を、より効果的かつ計画的に実施するため、H29.3月に「河川流下能力向上計画」を策定しました。**

対策の方向性

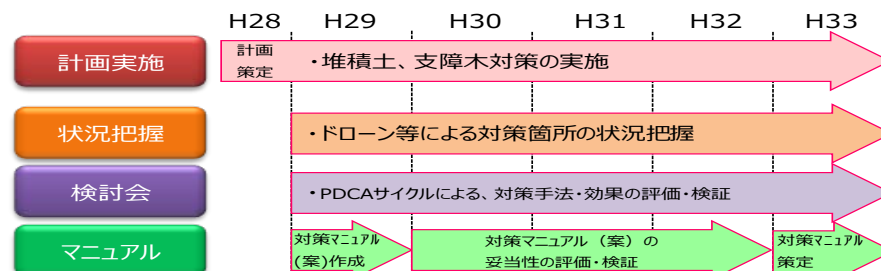
●基本的な考え方

ボトルネック箇所は是正／洪水時の流木の発生抑制／対策効果維持する創意工夫／効率的な対策方法の確立

●堆積土・支障木対策の実施基準と目標 160km(約190か所)

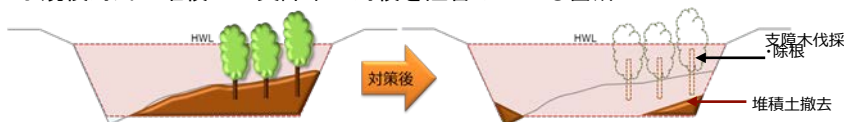
沿川区分・配慮すべき状況	実施基準	延長	目標
・市街地（A） ・要配慮者利用施設に影響のある箇所	河道閉塞率10%超	44km 9km	河道閉塞率を 5%以下とする
・市街地近郊（B） ・洪水被害を受けやすい屈曲部 ・流木が引っかかりやすい橋梁部	〃 20%超	13km 32km 23km	河道閉塞率を 10%以下とする
・その他（C）	〃 30%超	39km	河道閉塞率を 15%以下とする

●対策スケジュール

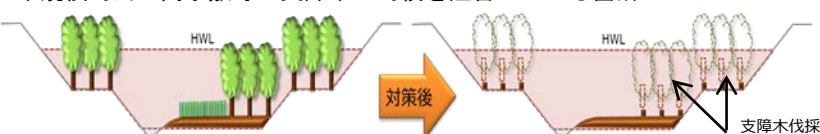


対策の考え方

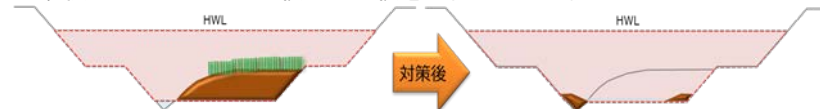
I 主に小規模河川で堆積土と支障木が河積を阻害している箇所



II 主に中規模河川で高水敷等の支障木が河積を阻害している箇所



III 主に中規模河川で低水路の堆積土が河積を阻害している箇所



IV 上記II・IIIの要因が合わさり河積を阻害している箇所は、両方の対策を実施

コスト縮減の取組み等

●公募型の河床掘削・支障木伐採の活用

流下能力向上対策として、引き続き、対策実施延長の1割程度を公募型で実施していく。

今年度「地域プラットフォーム形成支援」(国交省)の採択を受け、山形河川国道事務所とも連携し、「民間活力を活かした樹木管理」にも着手しています。

